

KYOTO SEIKA  
UNIVERSITY

GALLERY TERRA-S

ACTIVITY REPORT

2025  
2022

京都精華大学ギャラリーTerra-S  
2025年度活動報告書



GALLERY TERRA-S

KYOTO SEIKA UNIVERSITY GALLERY TERRA-S

ACTIVITY REPORT 2025

京都精華大学ギャラリーTerra-S

2025年度活動報告書

# GALLERY TERRA-S

## 目次 | CONTENTS

05 ご挨拶

### 企画展

08 スケッチーズ|八瀬の石黒さん家から見た世界

14 眠りから目覚めた名品たち—京都精華大学ギャラリーTerra-Sコレクション展2025—

### 申請展 & その他

22 Sequence

24 Material Love

26 cycle

28 旅するテキストスタイル Eight Sceneries

30 合同陶芸展 2025

32 おいでよ、Home(Come over, Home)

34 跡seki 京都精華大学 嵯峨御流華道同好会 第28回華展

36 木野祭2025 作品展示会「もえる」

38 具□抽○

40 プロジェクト企画演習成果展「Paths」

42 アウトライン—上野英里×辻大輝

44 京都精華大学展2026—卒業・修了発表展—

46 WATER COOLER CONVERSATIONS @ 左京区(冷水機での対話 @ 左京区)

48 高校生のための第7回創作作品コンペティション「SEIKA AWARD 2026」

### 所蔵品の管理・活用

52 京都の大学ミュージアム特集5「大学の宝物 2025 夏」

54 京都の大学ミュージアム特集6「おくりもの」

56 所蔵品貸出状況等

58 博物館実習／所蔵品保存環境の改善

59 広報

60 出版物／外部連携

61 研修等への参加／調査研究活動／運営体制

62 2025年度ギャラリー来場者数

63 施設案内・ギャラリー図面



## ご挨拶

ギャラリーTerra-Sは前身のギャラリーフールが1997年に博物館指定施設の指定を受けていることから、2022年の博物館法改正に伴い、所蔵品の展示活用・保存環境の改善、施設運営面などの再整備を行うべく、2024年4月より新たな活動を始め、2025年度も様々な展覧会を開催しました。

企画展「スケッチーズ|八瀬の石黒さん家から見た世界」展では、多様な専門家や研究者たちが八瀬陶窯と人間国宝・石黒宗麿の世界を新鮮な切り口で展示し、社会との繋がりを広げました。そのほか国内外で活躍する卒業生や在校生の熱量溢れる作品が展示された申請展など、多様な企画によって、生き生きとしたギャラリーが展開されました。

なかでも12年ぶりとなる所蔵品展「眠りから目覚めた名品たち-京都精華大学ギャラリーTerra-Sコレクション展2025-」は京都精華大学の歴史や京都の文化を今日に伝え、将来に向けて継承発展していく上で重要な役割を果たしました。本学の約12,000点に及ぶ所蔵品は多岐に渡りますが、今回は厳選した100点の展示となりました。そのうち、開学から教鞭をとり大学の発展のためにご尽力された先生方の作品の選定作業は、神気漂う此岸と彼岸を繋ぐような作業となりました。さらに会場で作品にスポットライトが当たると作家の魂が浮かび上がるようなその様は、高い精神が吹き込まれた故に作家に代わって作品がその後の人生を生き続けるからだと感じました。

2026年度は所蔵品展のみならず、申請展や企画展、小展示室における常設展の開催、コレクションの調査、所蔵品の保存修復の強化などを予定しており、皆様により親しんでいただけるようなギャラリーにして参ります。引き続きご支援とご来場をお願い申し上げます。

京都精華大学ギャラリーTerra-S館長／芸術学部教員  
鳥羽美花

# SPECIAL EXHIBITION

## 企画展

### SPECIAL EXHIBITION

企画展は、ギャラリーの学芸スタッフおよび教員が日頃の調査・研究をもとに企画・実施し、その成果を展覧会という場を通して広く社会へ発信している。

①本学の所蔵品を調査・研究して紹介する所蔵品展、②活躍する卒業生および教員を調査し、学芸員がテーマに基づいて紹介するグループ展、③教員の研究テーマに基づく研究成果の発表の場としての展覧会、という三つの方向性に基づき、前期(4月～9月)と後期(10月～3月)の年2回、各回約4～5週間の会期で例年開催している。

今年度は前期に「スケッチーズ|八瀬の石黒さん家から見た世界」を開催した。本展では伝統産業イノベーションセンターとギャラリーTerra-Sの共同企画で、多数の研究者、アーティスト、教員が参画した。後期には「眠りから目覚めた名品たち—京都精華大学ギャラリーTerra-Sコレクション展2025—」を開催し、洋画、日本画、版画、立体造形、工芸、伊勢型紙、拓本、書といった多様なジャンルを横断的かつ網羅的に紹介するコレクション・ハイライト展となった。

## ギャラリーTerra-S 前期企画展 「スケッチーズ | 八瀬の石黒さんから見た世界」

会 期 2025年6月27日(金)–8月3日(日)  
時 間 11:00–18:00  
会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S  
主 催 京都精華大学  
助 成 公益財団法人三菱UFJ信託地域文化財団  
協 力 射水市新湊博物館、京都市左京区役所八瀬出張所、日本玩具博物館、路上観察学会  
40周年記念事業「路上観察よ いつまでも」

出展作家 【陶芸チーム】木村隆(釉薬研究)、田中大輝(陶芸家)、中村裕太(美術家)  
【建築チーム】恵谷浩子(風景学)、諏佐遙也(模型製作)、本橋仁(建築史家)  
【庭景チーム】石川知海(御庭植治)、山本麻紀子(アーティスト)  
【集古チーム】菊地暁(民俗学)、松元悠(版画家・美術家)、麥生田兵吾(写真家)  
【玩具チーム】尾崎織女(日本玩具博物館学芸員)、軸原ヨウスケ(デザイナー・玩具工芸社)、長友真昭(玩具作家・玩具工芸社)、山名伸生(玩具蒐集家)

企画担当 伝統産業イノベーションセンター(中村裕太(本学芸術学部教員)、小出麻代)、  
ギャラリーTerra-S(齋藤雅宏)

運営担当 伝統産業イノベーションセンター(米原有二(本学人文学部教員)、フォック・チン)、  
ギャラリーTerra-S(伊藤まゆみ)

開場日数 33日  
入場者数 1,272人

陶芸家で人間国宝の石黒宗麿(1893–1968)は京都・八瀬で窯を築き、晩年までこの地で作陶を続けた。本展では陶芸、建築、庭景、集古、玩具の5つのテーマごとに作家・研究者・専門家らによるチームを編成し、石黒が残したスケッチから地域の風景や風習と石黒の創作を読み解いて作品を制作した。展示では作品とともに石黒のスケッチや関連資料を紹介した。石黒は生前、自身の窯「八瀬陶窯」が後進の陶芸家の研究の場となることを望んでいた。本展はその石黒の遺志を引き継ぎ、表現と研究活動の場となることを目指して企画された。展覧会に加えてトークやワークショップなどの関連イベントを通じて、多様な専門家が交わることによる知見の広がりや、新しい視点を示される機会となった。



マンガ: 谷本研  
デザイン: 仲村健太郎 (Studio Kentaro Nakamura)







## 関連イベント

### 【オープニングトーク】

日時 | 6月27日(金)18:30-19:30

会場 | 京都精華大学ギャラリーTerra-S

写真:1、2、3

### 【なかよしトーク|ビヨンド・ザ・『アウト・オブ・民藝』】

日時 | 7月11日(金)19:00-20:30

会場 | ラーニングcommons

登壇 | 軸原ヨウスケ+中村裕太

コメンテーター | 角南聡一郎(神奈川大学)

司会 | 菊地暁

共同主催 | 京都民俗学会

写真:4、5

### 【手仕事の学校1|八瀬の民俗・民家・風景・路上観察】

日時 | 7月12日(土)13:00-17:00

会場 | 八瀬陶窯

ファシリテーター | 本橋仁

トーク1:「八瀬の民俗と民家(今和次郎、西山卯三、路上観察、瀝青会)」菊地暁

トーク2:「八瀬陶窯と八瀬の景観」恵谷浩子

ワークショップ:「八瀬の路上観察」林文二(路上観察学会、イラストレーター、エッセイスト)

写真:6、7

### 【手仕事の学校2|八瀬陶窯の庭・玩具のデザイン】

日時 | 7月13日(日)13:00-17:00

会場 | 八瀬陶窯

ファシリテーター | 米原有二

トーク1:「石黒さんのスケッチと庭」山本麻紀子+石川知海

トーク2:「玩具工芸とデザイン(八瀬の麦藁人形・伏見人形)」

軸原ヨウスケ+長友真昭

ワークショップ:「八瀬の麦藁人形を作る」尾崎織女

写真:8、9、10、11

### 【ギャラリートーク】

日時 | 7月26日(土)14:00-14:30

会場 | 京都精華大学ギャラリーTerra-S

写真:12

## ギャラリーTerra-S後期企画展 「眠りから目覚めた名品たち-京都精華大学 ギャラリーTerra-Sコレクション展2025-」

会 期 2025年11月21日(金)–12月20日(土)

時 間 11:00–18:00

会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S

主 催 京都精華大学

企 画 伊藤まゆみ(京都精華大学ギャラリーTerra-S学芸員)、  
鳥羽美花(京都精華大学ギャラリーTerra-S館長、  
本学芸術学部教員)

展示作家 赤瀬川原平、浅野竹二、石川九楊、伊谷賢蔵、伊藤若沖、今井憲一、ウジェーヌ・ドラクロワ、榎忠、  
岡崎和郎、オノレ・ドミーエ、葛飾北斎、金田辰弘、黒崎彰、小林陸一郎、斎藤博、芝田耕、  
白井昭子、ジョゼフ・アルパース、須田国太郎、高原威、津田青楓、ドナルド・ジャッド、富山妙子、  
豊原国周、長岡國人、西田潤、橋田二郎、パブロ・ピカソ、福井勇、藤田嗣治、  
フリードリヒ・メクセペル、ベン・シャーン、マルク・シャガール、棟方志功、村岡三郎、由里明、  
楊州周延、ヨルク・シュマイサー、李禹煥 ほか

開場日数 26日

入場者数 1,301人

今年度よりギャラリーのミッションに加わった「本学の所蔵品の管理と展示機会の創出」のもと、ギャラリーTerra-Sとして初の所蔵品展を開催した。本学の所蔵品は洋画、日本画、版画、立体造形、工芸、デザイン、マンガ、伊勢型紙、拓本、書など多岐にわたり、約12,000点に及ぶ。また、作品を寄贈いただいた作家や寄贈者の名前を冠したコレクションも多数所蔵している。1980年から2017年までの収集活動では、退任教員や活躍する卒業生の作品、ギャラリーで実施した企画展の出品作品、美術系・人文系双方の学生の制作や研究に寄与する作品および資料を収集する方針がとられ、当時の資料収集委員や学芸員によって個性的なコレクションが形成されてきた。本展はコレクション・ハイライト展として、多様なコレクションのなかから主要な作品を紹介した。来場者からは所蔵品の多様さに驚く声が多く寄せられ、今後のコレクション活用に向けた契機となった。



デザイン:津村正二(tsumura grafik)

### 関連イベント

#### 【オープニングトーク

「京都精華大学のコレクションについて」

日時 | 2025年11月21日(金)18:00–19:00

会場 | 京都精華大学ギャラリーTerra-S

出演(トーク順) | 生駒泰充、山名伸生、北野裕之、  
池垣タダヒコ、吉野央子、宮永甲太郎

(すべて本学教員)

進行 | 鳥羽美花、伊藤まゆみ

※トーク終了後、レセプション開催

#### 【担当学芸員によるギャラリートーク】

日時 | 2025年12月6日(土)、

20日(土)14:00–14:30

会場 | 京都精華大学ギャラリーTerra-S







# OPEN CALL EXHIBITION & OTHER EXHIBITION

## 申請展 & その他

### OPEN CALL EXHIBITION & OTHER EXHIBITION

申請展は、在学生や卒業生、教職員がディレクターとなり、自らの学修成果・研究成果を発表する展覧会である。授業やサークル活動の成果発表展や有志によるグループ展、自らの制作活動を振り返る個展など、その内容は幅広く多彩である。

展示空間はギャラリー全域を使った全区画、半分に分割したA・B区画から選択できる。募集は前期と後期の年2回行い、運営委員による審査を経て選ばれた企画が約8日間展示し、年間をとおして約10～12本の展覧会を開催している。

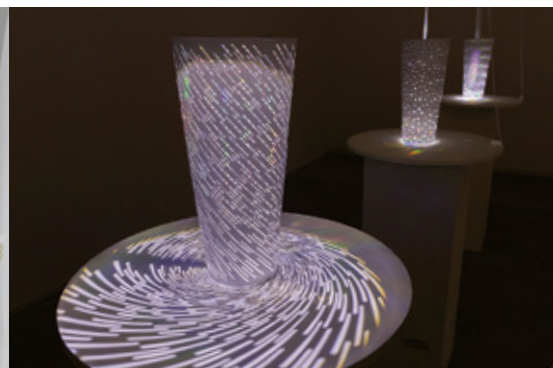
今年度は、在学生の申請が4展、教員の申請(出品者は在学生を含む)が6展、卒業生の申請が1展あり、活躍する卒業生による展示や授業の成果展、他大学との交流展など様々な制作・研究成果の発表の場となった。

また大学行事に関連する展示として、「木野祭2025作品展示」や「京都精華大学展2026」、「高校生のための創作作品コンペティション『SEIKA AWARD2026』」入選作品展の会場としても活用され、学内外、周辺地域から多数の来場があった。

## Sequence

会 期 2025年4月18日(金)–4月26日(土)  
時 間 11:00–18:00  
会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S A区画  
主 催 ビジュアルデザイン学科  
ビジュアルプロダクト 2024  
出展学生 キャサリン・セリシア ニオ、小手川志歩、  
月野茜、道佛幸祐、西立野ひより、平川和照、  
フ・ヨウテイ、細見陽向、ラム・チュンヤン  
担当教員 王怡琴、峠田充謙、増永明子  
開場日数 9日  
入場者数 372人

2024年度のプロジェクト授業「ビジュアルプロダクト」の成果発表展。デザイン学部ビジュアルデザイン学科の4年生9名が、朝から夜へ、内から外へ、生から死へ移ろう時間や状況、また日常生活に付随するさまざまな「ながれ」を題材に、紙を素材にした作品を制作した。授業を通じて紙媒体ならではの印刷技術や造形、触覚性、視覚効果による表現の可能性を探り、それぞれのテーマを作品で提示した。ギャラリー空間は作品にまつわる個々の物語が連なり合う場となり、来場者は作品が生み出すみずみずしい感性の「Sequence」を楽しんだ。



## Material Love

会 期 2025年5月9日(金)–5月17日(土)

時 間 11:00–18:00

会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S

主 催 Material Love Project

出展作家 荒井鈴奈、小山正、坂口静香、新谷嘉子、  
中村琴梨、鍋倉悠希、村田成

開場日数 8日

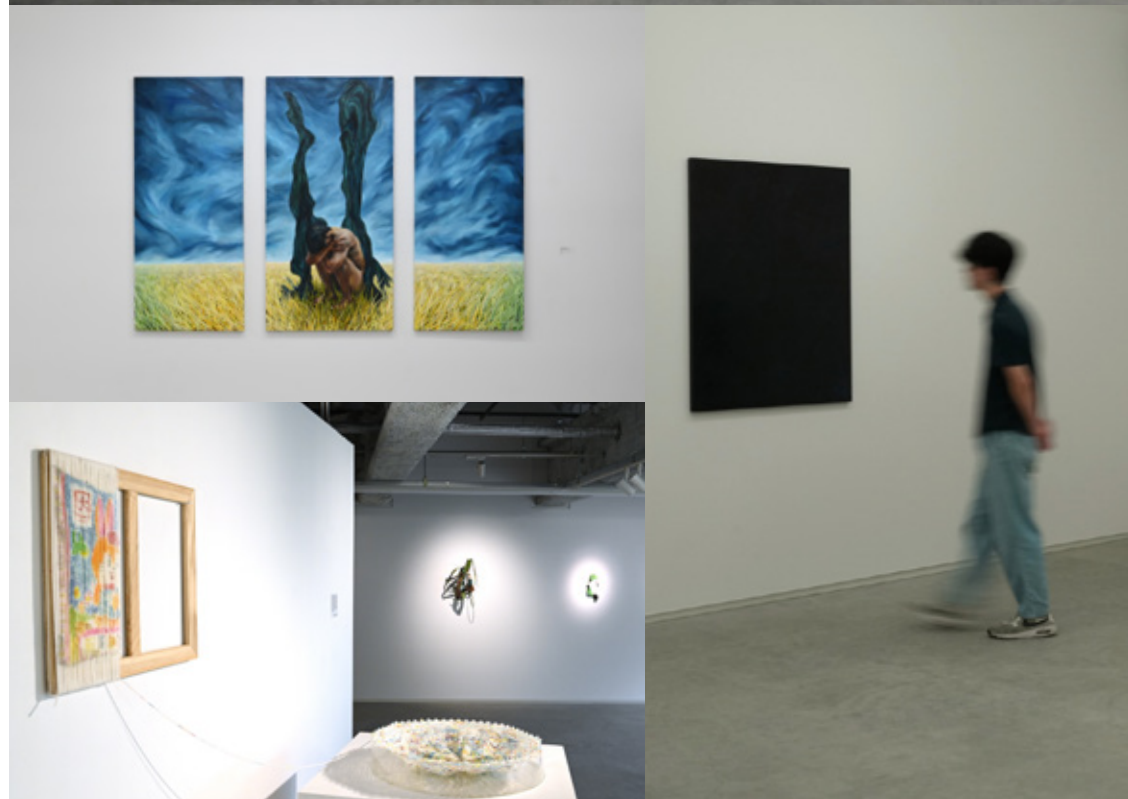
入場者数 400人



デザイン: 小手川志歩

芸術学部洋画専攻4年生7名のグループ展。「物質 (Material)」を用いて表現された作品は、作家にとっての救いや執着などの感情が複雑に凝縮された「愛 (Love)」である。作家それぞれが関心を寄せる素材に向き合いながら制作した作品はギャラリー空間で響き合い、心地よい展示空間を生み出した。重ね

られた絵具や光と影が作り出すイメージによる作品や、柔軟な素材で構成された幾何形体や土による偶発性を引き入れて制作された作品、写真や糸を用いてイメージの解体と再構築を試みた作品など、作家らの制作に対する共通した姿勢と、素材表現への意欲的で多様なアプローチは来場者を楽しませた。



## cycle

会 期 2025年5月23日(金)–5月31日(土)

時 間 11:00–18:00

会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S A 区画

主 催 cycle 実行委員会

出展作家 池田慎之介、久保愛子、サイカシン、筒井夏鈴、松本玲果

開場日数 8日

入場者数 226人



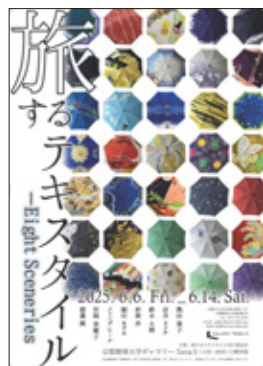
芸術学部映像専攻卒業生5名によるグループ展。「cycle」は、宇宙や自然、生死、破壊と再生、輪廻といった循環を意味すると同時に、映像や装置が持つ循環性も表している。池田は抽象的な映像をガラスやアクリルに投影し映像が展示室内に反射し重なり合う空間を構成した。久保は大きなガラス板に金属線で形作られたキャラクター(宇宙人)を無数に施した作品を制作し、視覚的な反復と存在感を提示した。

サイカシンは空気中の水分を集め、また空気中に戻す機械を制作し循環の可視化を試みた。筒井は東洋思想と山水を題材に映像と写真などによるインスタレーションを制作し、客体と主体の関係を思索した。松本は情景と風景がユーモラスに結ばれたイメージをアニメーションで表現し、3面スクリーンでリズムカルな映像空間を展開した。展示空間を取り込みながら「cycle」の概念を多面的に表現する展覧会となった。



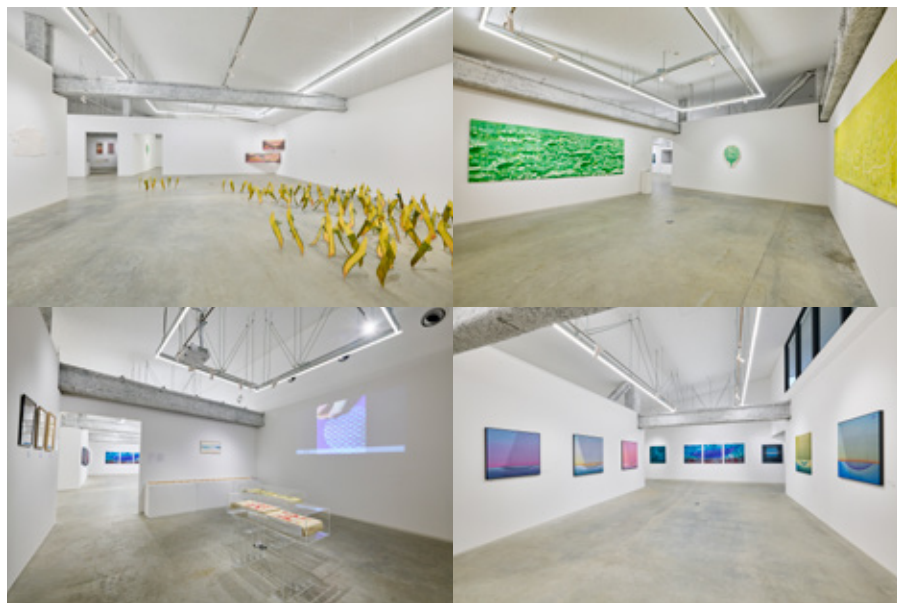
## 旅するテキスタイル Eight Sceneries

会 期 2025年6月6日(金)–6月14日(土)  
時 間 11:00–18:00  
会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S  
主 催 旅するテキスタイル実行委員会  
出展作家 熱田聖子、岩井まどか、鈴木大晴、府玻杏、細田あずみ、  
宮城美穂子、メリンダ・ヒール、渡邊操  
開場日数 9日  
入場者数 484人



芸術学部テキスタイル専攻の卒業生と教員8名によるグループ展。手染めの布や糸、手漉き和紙でインスタレーションを展開する熱田。型染めで自身の原風景である海を描く岩井。様々なイメージや文様を手掛かりに、リズムカルな画面を織りで生み出す鈴木。インドネシアのチャンチンを用いた蠟纈染で細密かつ深い色調の画面をつくる府玻。日常的なモチーフから吉祥文様までをぼかし染めや蠟纈染めで描き、

着物や作品を制作する細田。「染色は自然から色を頂くこと」という信念のもと伝統的な刺繍表現を追求する宮城。オーストラリアの豊かな自然や動物を日本の伝統的な糊染技法で描くヒール。風景や心象を織り交ぜた独自の表現を展開する綴織作家の渡邊。それぞれが素材や技法と向き合い表現世界を探究した成果を提示し、テキスタイル表現の幅広さと可能性を示す展示となった。



## 合同陶芸展 2025

会 期 2025年8月22日(金)–8月30日(土)  
 時 間 11:00–18:00  
 会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S、ほか  
 主 催 京都学生合同陶芸展実行委員会  
 出展大学 大阪芸術大学、京都市立芸術大学、  
 京都芸術大学、京都精華大学、  
 京都美術工芸大学、嵯峨美術大学  
 開場日数 8日  
 入場者数 476人

芸術系大学で陶芸を学ぶ学生有志による交流展。伝統工芸としての陶芸から現代美術としての陶芸まで、幅広い表現の可能性を探ることを目指し2008年から継続して開催されている。ギャラリーTerra-Sでの開催は今年で4回目となり、参加作家は過去最多の79名であった。作品はギャラリー内にとどまらず、明窓館2階のインフォメーション commons や3階のアクティビティ commons、屋外の明窓テラスなどにも展示され、場所の特徴を活かした作品空間が展開された。会期中には交流会や講評会などのイベントが行われ、ギャラリー前のアクティビティ commons ではショップスペースと作家の器を用いたかき氷屋が開かれた。一般の来場者も含め多くの学外者が訪れ、会場はにぎわいに包まれた。



デザイン:花戸麻衣



## おいでよ、Home (Come over, Home)

会 期 2025年10月3日(金)–10月11日(土)  
時 間 11:00–18:00  
会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S  
主 催 おいでよ、Home実行委員会  
出展作家 青山礼、ホン・ウォンヒョン、イ・ドンミン、中島幹太、パク・ダイン、  
鈴木大山、梅崎結菜、山口玲、ユン・ジェホ  
監 修 者 吉岡恵美子(本学芸術学部教員)  
開場日数 9日  
入場者数 506人



デザイン:キム・ジンホン

芸術学部の洋画、版画、立体造形、陶芸、テキスタイル専攻の4年生9名によるグループ展。ホワイトキューブと対照的な「家(Home)」という私的空間をギャラリーに立ち上げることで、芸術は特別な場所のみ存在するものではなく、私たちの日常生活のなかにもあるという認識を来場者と共有することを目指して企画された。各作家はリビング、寝室、キッチン、ドレッ

シングルルームといった生活空間をテーマに作品を構成し、全体として一つの「家」を形づくるような空間を創出した。会期中には木炭粉と紙で行為の痕跡を残すDJパフォーマンスや、身近な素材を用いた版画のワークショップ、作家の器でもてなすお茶会を開催した。本展覧会とイベントを通じて、来場者にとって日常に改めて目を向ける契機となった。

### 関連イベント

#### 【オープニング DJ パフォーマンス】

日時 | 10月3日(金)12:15–13:15

会場 | 明窓テラス

DJ | しんたま、ディエゴ、ホン・ウォンヒョン

#### 【ワークショップ:版画で作る暮らしから生まれるアート】

日時 | 10月5日(日)13:30–16:30

会場 | ディスカッションスペース1

講師 | 青山礼

#### 【お茶会:間(あいだ)】

日時 | 10月4日(土)、5日(日)、11日(土)

(各日:12:00–15:50 / 各回20分)

会場 | IC3(アイシーキューブ)

亭主 | イ・ドンミン



## 跡 seki

### 京都精華大学嵯峨御流華道同好会 第28回華展

会 期 2025年10月23日(木)–10月25日(土)  
時 間 11:00–18:00(最終日は15:00まで)  
会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S  
主 催 京都精華大学嵯峨御流華道同好会  
後 援 はな古伝  
開場日数 3日  
入場者数 172人

嵯峨御流華道同好会の成果発表展。第28回目となる本展のテーマは「花と記憶」。花には土や光に刻まれた時間、誰かのまなざしに触れた痕跡、言葉にならない思いが宿る。「花をいける」という行為は、そうした花の記憶をすくい上げ、たぐり寄せて一時の美しいかたちをつくることである。会場では季節の花を魅せるいけばなをはじめ、竹をダイナミックに空間構成した作品が来場者の眼を惹きつけた。窓際の大壺に活けられた花材が外の風景を借景として取り込み、ギャラリー空間に豊かな広がりを見せていた。短い会期にもかかわらず多くの来場者で賑わい、いけばなの美しさと満ちた花の香りが見る人を楽しませた。



## 木野祭2025 作品展示会「もえる」

会 期 2025年11月1日(土)–11月2日(日)  
時 間 11:00–18:00(最終日は16:00まで)  
会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S  
主 催 木野祭実行委員会  
開場日数 2日  
入場者数 1,364人

木野祭2025のテーマ「KEY:FLAME」の「FLAME(炎)」にちなみ、「もえる」をテーマとした作品展を開催した。展示作品は本学の学生と教職員を対象に公募した。会場には学生たちが「もえる(燃える／萌える)」ものを自由に表現した作品が並び、併せて写真部による写真展が行われた。近隣の住民の方々や保護者の方々をはじめ多くの来場者が訪れ、絵画、イラスト、立体、写真、映像、インスタレーションなど幅広い表現を楽しんでいた。



## 具□抽○

会 期 2026年1月9日(金)–1月17日(土)

時 間 11:00–18:00

会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S

主 催 具□抽○実行委員

出展作家 林田花菜、細井晴太、堀晴歌、山中優奈、山本良太

開場日数 7日

入場者数 308人



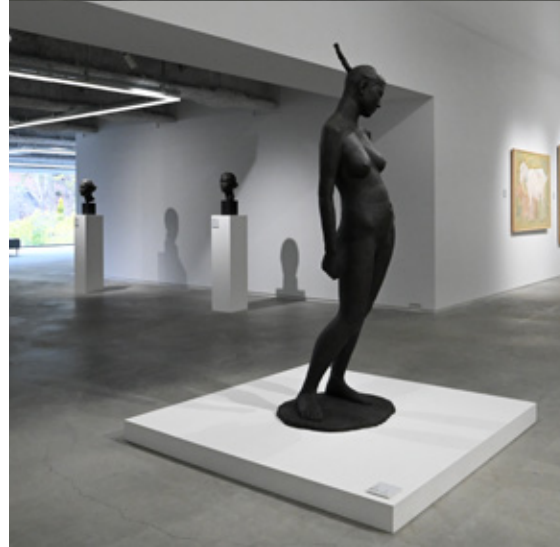
デザイン: 嘉戸遼見

第2会場 京都精華大学対峰館ドラフトギャラリー

会 期 2026年1月5日(月)–1月14日(水)

芸術学部の洋画、日本画、立体造形専攻の3年生5名によるグループ展。本展は具象と抽象、そしていずれにも当てはまらない領域が共存する展示空間を目指した。展覧会タイトルの「□」や「○」は不確かな領域を象徴的に示す。洋画専攻の山本は住宅街や室内など身近な風景を緻密に描き、山中は有機的な曲線を画面全体に張り巡らせたドローイングを展開した。日

本画専攻の林田は祖母や動植物をモチーフに、静謐な描写で表情や情感を表現し、堀は生き物と幾何学形態が交わるイメージと立体的なオブジェを組み合わせた作品を制作した。立体造形専攻の細井は人体を丹念に彫刻し、内なる美を追究した。鑑賞者は、「何を具象とし、何を抽象とするのか」という問いを抱きながら作品と向き合い、思いを巡らす時間を過ごした。



## プロジェクト企画演習 成果展「Paths」

会 期 2026年1月23日(金)–1月31日(土)

時 間 11:00–18:00

会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S A区画

主 催 研究科共通基盤科目「プロジェクト企画演習」

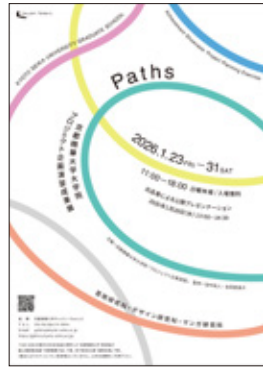
出展作家 【芸術研究科】北村友海、ギ・ハンショウ、坂本萌々、  
田中晴喜、チョウ・ウゴウ、外村早季菜、濱本綾乃、  
アテネ・モハマッドシャヒ、山岡樹里、柳紗奈

【デザイン研究科】キン・ラクシ、コ・ミ、セン・ショデン、チョウ・カソウ

【マンガ研究科】キム・ヒョウォン、ショウ・シオン、リョウ・シンキ

開場日数 8日

入場者数 360人



デザイン:小川由華

2026年度「プロジェクト企画演習」を履修した大学院博士前期課程・修士課程1年生(芸術研究科・デザイン研究科・マンガ研究科)17名による成果発表展。作家それぞれの取り組みを道になぞらえ、展覧会を通じて作家同士とも来場者とも共有したいという思

いを展覧会タイトルに込めた。ほとんどの作家が新作や新しい展示形態に挑戦し、試行錯誤しながら取り組んだ。多様で鮮やかな作品たちが空間を彩り、鑑賞者の眼を楽しませた。

### 関連イベント

【出品者による公開プレゼンテーション】

日時 | 1月28日(水)13:00–14:30

会場 | 京都精華大学ギャラリー Terra-S



## アウトライン—上野英里×辻大輝

会 期 2026年1月23日(金)–1月31日(土)  
時 間 11:00–18:00  
会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S B区画  
主 催 京都精華大学現代アートプロジェクト実行委員会  
企 画 イ・ユンジン、岡本裕登、カク・ルル、菅竜太郎、  
金城ひより、コウ・ビキ、正心鼓太郎、曾我部優羽、  
古島百花、村岸凌青、山本良太、ヤン・イエリン、  
ユウ・エツリン、ユ・レイテイ、吉田樂衣、渡邊勇(企画立案)  
出展作家 上野英里、辻大輝  
開場日数 8日  
入場者数 360人



デザイン:小川由華

芸術学部の授業「表現研究3・4」を履修する学生が自ら企画立案した展覧会。愛知を拠点に活動する油彩画家の上野英里と、本学大学院芸術研究科映像領域に在籍する映像作家・辻大輝による二人展を開催した。両作家は扱うメディアこそ異なるものの、現代におけるアイデンティティの不確かさへの関心という点において共通している。10枚の自立するスクリーン

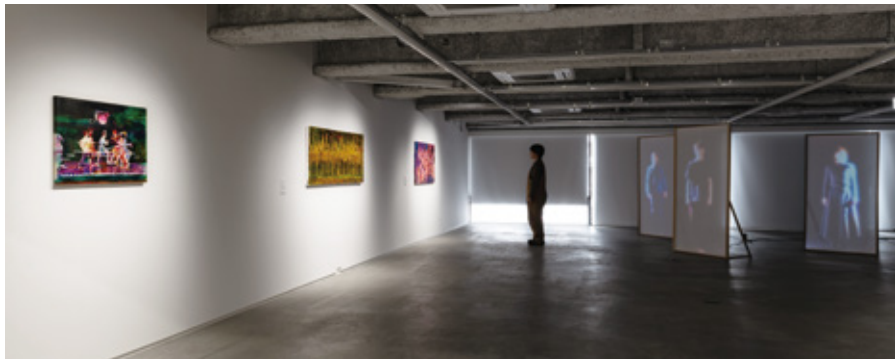
に人物が次々に映し出される辻の映像インスタレーション作品と、群衆と個をテーマに動きがある筆跡が特徴的な上野の絵画作品が呼応し合い、緊張感のある空間を生み出していた。学生たちは、展覧会の構成検討、作家とのコミュニケーション、広報活動、作品搬入出作業、会期中のトークイベントの企画・運営など、キュレーションのプロセスを経験した。

### 関連イベント

【アーティストトーク上野英里×辻大輝】

日時 | 1月23日(金)12:15–13:00

会場 | 京都精華大学ギャラリー Terra-S



## 京都精華大学展2026—卒業・修了発表展—

会 期 2026年2月11日(水)–2月15日(日)

時 間 10:00–17:00

会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S

主 催 京都精華大学

出展作家 【芸術研究科】(洋画領域) 菱田歩美、脇田舜生、ヨウ・カイ

(日本画領域) オウ・ギョウセツ

(立体造形領域) 岡澤武、シュー・ヤティン、チョウ・エンリン

(陶芸領域) ソウ・イテイ

(染織領域) 金田結愛、菊池優惟子、ト・シャノン・カヤ

(版画領域) カク・ショウイ、笹崎凜、シュウ・カク、ショウ・シンイ

(映像領域) チン・ブンウィ、辻大輝、ヒョウ・イッケン、マ・シンギョク

【マンガ研究科】(マンガ実技領域) コウ・シエン、チン・イゲツ

開場日数 5日

入場者数 2,727人

「京都精華大学展2026—卒業・修了発表展—」における大学院芸術研究科19名とマンガ研究科2名の展示。芸術研究科の洋画、日本画、立体造形、陶芸、染織、版画、映像の各領域と、マンガ研究科のマンガ実技領域の博士前期課程修了生が大学院2年間の制作・研究の成果を発表した。

### 関連イベント

【ゲストによる公開合評会】

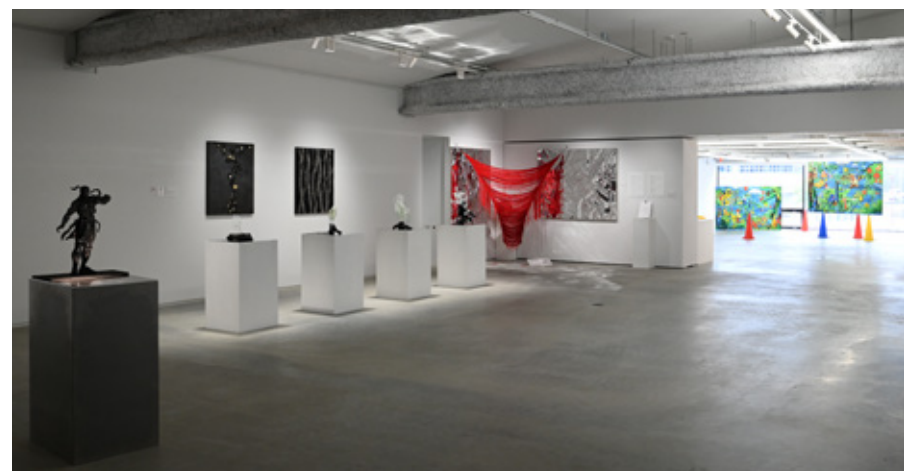
日時 | 2月12日(木)14:00–17:00

会場 | 京都精華大学ギャラリーTerra-S、ほか

ゲスト | 鷺田めるろ(金沢21世紀美術館館長)



デザイン: 花戸麻衣



## WATER COOLER CONVERSATIONS@左京区 (冷水機での対話@左京区)



会期 2026年2月27日(金)~3月7日(土)

時間 11:00~18:00

会場 京都精華大学ギャラリーTerra-S

主催 ×SHAKE ART!

出展作家 【成安造形大学】要、みずあねかじふ

【京都市立芸術大学】木村健太郎、【京都芸術大学】松森弘明

【京都精華大学】momo、莉山、【嵯峨美術大学】やたなつき、【嵯峨美術短期大学】谷口和津美

運営・広報 【京都精華大学】池田吾子、藤内秋里、莉山、【京都市立芸術大学】サンガー梨里

WS企画 【京都精華大学】渡叶多

空間設計 【京都市立芸術大学】久保花音、河野向日葵、【京都精華大学】濱瀬貴文

記録撮影 【京都芸術大学】日高憲伸、藤本一輝

開場日数 8日

入場者数 186人

「Water Cooler Conversation」とは、オフィスの冷水機前で交わされる雑談のこと。京都を中心とした5つの美術系大学から集まった8名の作家と運営メンバーは、鑑賞者とのゆるやかな関わり合いによって、

気づきや新しい表現が生まれることを目指した。絵画や立体、映像、メディアアート、インスタレーションなど様々な作品やワークショップの成果展示によって、展示空間における開かれた「対話」を試みた。

### 関連イベント

#### 【ワークショップ第1弾「対話型クロッキー」】

日時 | 2025年11月23日(日)

会場 | 梅小路公園

#### 【ワークショップ第2弾「膠話会」】

日時 | 2025年12月14日(日)

会場 | 京都市立芸術大学

#### 【ワークショップ第3弾

「自分たちの会議室をつくらう」

日時 | 2026年1月31日(土)

会場 | 京都精華大学 学生広場(流溪館前)

#### 【トークイベント】

日時 | 2026年2月28日(土)、3月7日(土)

各日 14:00~15:30

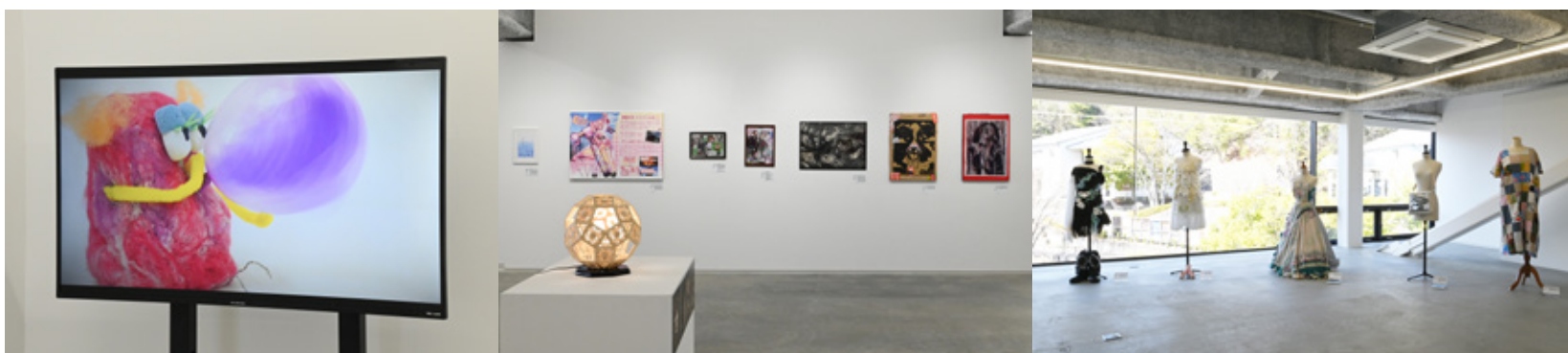
会場 | 京都精華大学ギャラリー Terra-S



## 高校生のための第7回創作作品 コンペティション 「SEIKA AWARD 2026」 入選作品展

会 期 2026年3月14日(土)–3月22日(日)  
時 間 10:00–17:00  
会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S  
主 催 京都精華大学  
開場日数 9日  
入場者数 409人

高校生の自由な創作活動の応援と、新しい才能の発見を目的としたコンペティション。第7回目となる今回のテーマは「記憶」。全国から1,137点の応募があり150点が入選した。本展では美術・工芸、デザイン、マンガ、メディア、文章、授業作品の6部門の受賞・入選作品を展示。入選作品のなかから教職員による厳正な審査のもと、43点をグランプリほか入賞作品として選出し、会期中に授賞式を実施した。全国各地から集まった高校生の多彩な作品を多くの来場者にお楽しみいただいた。



CONSERVATION,  
LOANS FROM  
KYOTO SEIKA  
UNIVERSITY  
GALLERY  
TERRA-S  
COLLECTION

## 所蔵品の管理・活用

*Conservation, Loans from  
Kyoto Seika University  
Gallery Terra-S Collection*

今年度より、本学所蔵品の管理および展示機会の創出がギャラリーTerra-Sの新たなミッションに加わった。日常業務としては、収蔵庫二室の温湿度確認や清掃に加え、所蔵品のコンディションチェックと整理を継続的に実施している。また、他館の展覧会への所蔵品貸出や学外からの画像貸出依頼への対応、他館学芸員や本学教員からの作品調査のための閲覧依頼に応じた。さらに、学内授業への所蔵品貸出協力や学芸員の出講、博物館実習の一部受け入れを通じて教育・研究への活用促進にも努めた。

また、後期企画展として所蔵品展「眠りから目覚めた名品たち—京都精華大学ギャラリーTerra-Sコレクション展2025—」を開催し、100点を超える所蔵品を公開したほか、京都・大学ミュージアム連携合同展「京都の大学ミュージアム特集5・6」へ参加するなど、定期的な展示機会の創出に注力した。

引き続き、保存環境の整備や保存修復の計画的実施なども進めながら、所蔵品の管理・活用に関わる基盤の強化を図っていく。

## 京都の大学ミュージアム特集5 「大学の宝物 2025 夏」

会 期 2025年7月26日(土)～9月7日(日)

会場時間 10:00-18:00

会 場 みよこめっせ地下1階中央西側  
『WEST SQUARE Window Gallery』

主 催 京都伝統産業ミュージアム(株式会社京都産業振興センター)

共催・企画 京都市立芸術大学芸術資料館  
京都教育大学教育資料館まなびの森ミュージアム  
京都精華大学ギャラリーTerra-S  
京都工芸繊維大学美術工芸資料館  
嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学附属博物館  
同志社大学歴史資料館  
龍谷大学 龍谷ミュージアム  
京都・大学ミュージアム連携

開場日数 40日

入場者数 5,144人

ギャラリーTerra-Sが加盟する京都・大学ミュージアム連携と京都伝統産業ミュージアムとの共催・企画による合同展「京都の大学ミュージアム特集5『大学の宝物 2025 夏』」に参加した。本展示では、「大学の宝物」をテーマとして、加盟館の所蔵品が展示された。本学からは田中直一コレクションから宝尽くし模様の

染の型紙を8点出品した。古代から現代にいたる国内外のさまざまな工芸品、美術品、教育資料などを加盟館の大学が所蔵していることをご紹介しますとともに、大学ミュージアムが京都という都市の多様性をそのまま表していると感じ取っていただく場となった。



《染の型紙 源氏香と竹と宝珠》

制作年不詳

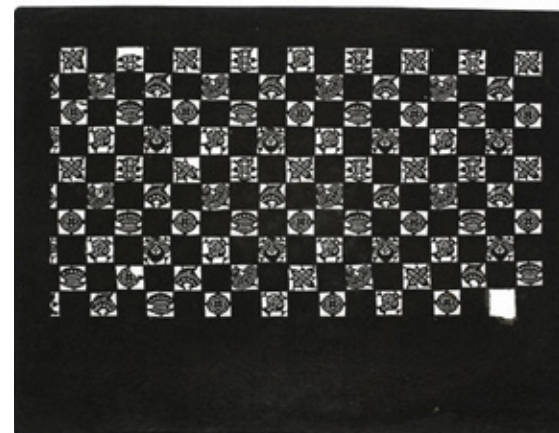
京都精華大学ギャラリーTerra-S蔵



《染の型紙 宝尽し》

制作年不詳

京都精華大学ギャラリーTerra-S蔵



《染の型紙 宝尽しの市松》

制作年不詳

京都精華大学ギャラリーTerra-S蔵

## 京都の大学ミュージアム特集6 「おくりもの」

会 期 2026年1月23日(金)–3月1日(日)  
会 場 時間 10:00–18:00  
会 場 みやこめっせ地下1階中央西側  
『WEST SQUARE Window Gallery』  
主 催 京都伝統産業ミュージアム(株式会社京都産業振興センター)  
共催・企画 京都芸術大学芸術館  
京都産業大学ギャラリー  
京都産業大学神山天文台  
京都市立芸術大学芸術資料館  
京都精華大学ギャラリーTerra-S  
京都大学総合博物館  
同志社大学歴史資料館  
佛教大学宗教文化ミュージアム  
龍谷大学 龍谷ミュージアム  
京都・大学ミュージアム連携  
開場日数 38日  
入場者数 5,321人



夏に続いて「京都の大学ミュージアム特集6『おくりもの』」に参加した。本展示では、9館の加盟館が参加し、「おくりもの」をテーマとして、本学からは岡崎和郎のマルチプル作品9点を展示した。「おくりもの」の解釈はさまざま、人から人へギフトとして贈られ

るものだけでなく、宇宙からの贈りもの、過去からの贈りもの、出土物のような土地からの贈りもの、自然界の素材を活かして制作された作品(自然からの贈りもの)、作家から大学への寄贈品など、多様な切り口で各館の所蔵品をお楽しみいただいた。



岡崎和郎《hear something……》  
1966年  
(C) Kazuo Okazaki  
京都精華大学ギャラリーTerra-S蔵



岡崎和郎《電球(ペーパーウェイト)》  
1964-1968年/2000年再制作  
(C) Kazuo Okazaki  
京都精華大学ギャラリーTerra-S蔵



岡崎和郎《手》  
1989年  
(C) Kazuo Okazaki  
京都精華大学ギャラリーTerra-S蔵

## 所蔵品貸出状況等

### 1) 所蔵品貸出状況

今年度に学外へ貸出した所蔵品は下記のとおり

**総計 4件31点**

#### 【貸出先名:京都文化博物館】

展覧会名:「今井憲一 ―幻想とリアルのあわい」(2025年7月26日-9月21日)

作家名・作品名・制作年:

今井憲一《葡萄のある静物》1926年

今井憲一《花と柿のある静物》1927年

今井憲一《卓上のチュウリップ》1930年

今井憲一《豊子像》1931年

今井憲一《ボダラの赤壁》1935年

今井憲一《寺院(ハルビン)》1935年

今井憲一《ハルビン街景》1935年

今井憲一《メアリー(ハルビンにて)》1935年

今井憲一《穿壕指揮》1943年

今井憲一 残像 No. 1

今井憲一 残像 No. 2

今井憲一 残像 No. 3

#### 【貸出先名:パナソニック汐留ミュージアム】

展覧会名:「ピクチャレスク陶芸 アートを楽しむやきもの―「民藝」から現代まで」(2025年7月12日-9月15日)

作家名・作品名・制作年:

西田潤《絶》2000年

西田潤《絶》2000年

※作品保全の理由により、展示中止

#### 【貸出先名:京都伝統産業ミュージアム】

展覧会名:「京都の大学ミュージアム特集5『大学の宝物 2025夏』」(2025年7月26日-9月7日)

作家名・作品名・制作年:

《染の型紙 宝尽し》制作年不詳

《染の型紙 宝尽し》制作年不詳

《染の型紙 竹に宝尽し》制作年不詳

《染の型紙 源氏香と竹と宝珠》制作年不詳

《染の型紙 宝尽しに鶴亀》(2枚型の主型) 制作年不詳

《染の型紙 宝尽しに鶴亀》(2枚型の消型) 制作年不詳

《染の型紙 石畳地宝尽し》制作年不詳

《染の型紙 宝尽しの市松》制作年不詳

#### 【貸出先名:京都伝統産業ミュージアム】

展覧会名:「京都の大学ミュージアム特集6『おくりもの』」(2026年1月23日-3月1日)

作家名・作品名・制作年:

岡崎和郎《hear something・・・》1966年

岡崎和郎《テーブルスカルプチャー》1977年

岡崎和郎《仙人掌》1994年

岡崎和郎《Money Box》1967年

岡崎和郎《指キャップボールペン》1968年

岡崎和郎《手》1989年

岡崎和郎《紅葉の手》1992年

岡崎和郎《ウィンク・リング(Ring)》1967-1971年/1993年再制作

岡崎和郎《電球(ペーパーウェイト)》1964-1968年/2000年再制作

### 2) 画像貸出許可状況

今年度の所蔵品の画像等の貸出許可状況は下記のとおり

**総計 3件13点**

・印刷物掲載のため2件

富山妙子《敷島の大和心》1995年、《朽木黒地三彩菊絵漆絵盆》、《朽木朱地金彩多菊黒縁漆盆》

・作品研究・調査のため1件

ヨルク・シュマイサー《法隆寺》1979年 ほか9点

### 3) 特別閲覧・授業利用状況

今年度の所蔵品の特別閲覧及び授業利用状況は下記のとおり

**総計 5件**

・学内閲覧2件

ダブロー・アンテ《ヒューマンスケープVII》2003年ほか2点、パブロ・ピカソ《仕事をする画家》1963年ほか2点

・学外研究者閲覧2件

今井憲一《穿壕指揮》1943年ほか10点、富山妙子《敷島の大和心》1995年など

・授業利用1件

ダブロー・アンテ《ヒューマンスケープVII》2003年ほか2点、

ジョルジュ・ルオー《『悪の華』のために版刻された14図》1926-1927年より3点

## 博物館実習

実施日:9月12日(金)

実習生:本学学生3名

実習内容/担当者:

- ・本学の型紙コレクションについて/鳥羽美花
- ・型紙の保存管理に関わる作業体験/伊藤まゆみ
- ・ジョルジュ・ルオー『『悪の華』のために版刻された14図』について/伊藤まゆみ
- ・所蔵品展示作業体験/伊藤まゆみ・齋藤雅宏

京都国際マンガミュージアムで実施された博物館実習のうち、1日をギャラリーTerra-Sが担当した。午前中は収蔵庫前室にて、本学の型紙コレクションに関するレクチャーを行い、その後、型紙の保存箱に用いる防虫香の取替作業を行った。午後はギャラリーTerra-Sにて、本学所蔵のジョルジュ・ルオーの版画作品を用いて展示作業の体験を行った。



## 所蔵品保存環境の改善

・4月より、収蔵庫および前室にデータロガーを設置し、温湿度測定を開始した。測定結果を踏まえ、収蔵庫の空調機器の点検・修理を実施するとともに、業務用加湿器および除湿器を導入し、季節に応じた湿度変化に適宜対応している。

・防菌・防塵対策として、収蔵庫と前室に粘着マットとHEPAフィルター付き掃除機を新規導入し、収蔵庫扉にはドア隙間対策用ブラシを設置した。

・博物館実習生や学生アルバイトの協力を得て、型紙・拓本・書籍の保存箱に防虫香を封入した。

・16ミリフィルムの適切な保管について他館学芸員へヒアリングを行い、その助言を踏まえてフィルムの脱酸処理と酢酸ガス吸収剤の封入を専門業者に委託した。処理後は、中性紙の保存箱に収め、低湿環境となる防湿庫に保管している。

●次年度は、収蔵庫の改修と修復を要する作品への対応、フィルム作品のデジタル化など、所蔵品の保存環境整備を優先課題とする予定である。同時に小展示室での常設的な所蔵品展の実施、新規収蔵・寄贈に関する方針整理、および未登録作品の登録作業を併せて進めていく。

## 広報

チラシ・ポスターをはじめ、ホームページやSNS等を活用して情報発信を行った。

- ・前期・後期企画展におけるチラシ・ポスター制作、DM発送
- ・出町柳駅・京都精華大前駅や学内掲示場所への申請展及び企画展のポスター掲出
- ・施設パンフレットの配布
- ・ホームページ随時更新
- ・SNS(X[旧Twitter]、Facebook、Instagram、YouTube)での情報発信
- ・展覧会情報ポータルサイトへの申請展及び企画展の情報掲載

広報件数(新聞、テレビなど各メディアに掲載・報道された件数)

KBS 京都「きょうと Days」(2025年5月9日)

京都新聞 朝刊「8人の染織 作品気分晴れやかに 旅するテキスタイル展」(2025年6月13日)

京都新聞 朝刊「人間国宝が八瀬で見たものは 陶芸家・石黒宗麿 築窯90年 左京 京都精華大で展示」(2025年7月10日)

京都新聞 朝刊「石黒宗麿の創作と八瀬の関係に迫る スケッチーズ展」(2025年7月26日)

京都新聞 朝刊「よみがえる先人の魂 京都精華大学ギャラリーTerra-Sコレクション展」(2025年11月29日)

読売新聞 朝刊「精華大に眠る名品展」(2025年12月17日)

合計 6件

ウェブサイトアクセス件数

ユーザー数:17,610件(ページビュー数:59,614件)

SNSフォロワー数

X(旧 Twitter):924人|Facebook:666人|Instagram:1,243人

## 出版物

### 1) 展覧会カタログ「スケッチーズ」八瀬の石黒さん家から見た世界」

発行日：2026年3月31日

ページ：90ページ

判型：A4変形

編集：齋藤雅宏、中村裕太、小出麻代

編集補：伊藤まゆみ、村田のぞみ

デザイン：仲村健太郎 (Studio Kentaro Nakamura)



### 2) 展覧会カタログ「眠りから目覚めた名品たち

—京都精華大学ギャラリー Terra-S コレクション展2025—

発行日：2026年3月23日

ページ：68ページ

判型：B5判

編集：伊藤まゆみ、鳥羽美花

編集補：齋藤雅宏、村田のぞみ

デザイン・印刷設計：津村正二 (tsumura grafik)



### 3) 年報

京都精華大学ギャラリー Terra-S 2024年度活動報告書

発行日：2025年4月18日

ページ：62ページ

判型：A5判

編集：伊藤まゆみ、齋藤雅宏

編集補：杉本奈奈重、波賀野文子

デザイン：花戸麻衣



## 外部連携

### 1) 京都・大学ミュージアム連携

加盟館有志が各館の所蔵品を展示する合同展へ本学所蔵品を出品した。(p.52-55参照)

京都市内外の16大学のミュージアムが参加する「第13回京都・大学ミュージアム連携スタンプラリー」(8月30日～2026年3月16日)に参加した。

### 2) 京都市内博物館施設連盟協議会

京都市内にある美術館・博物館などの文化施設102館が参加する「第29回京都ミュージアムロード」(スタンプラリー)(2026年1月21～3月15日)に参加した。

## 研修等への参加

### 1) 独立行政法人国立美術館キュレーター研修(研修館：京都国立近代美術館|研修期間：2025年6月～9月)

参加者：伊藤まゆみ(ギャラリー Terra-S 学芸員)

## 調査研究活動

### 1) 研究

【京都精華大学個人研究奨励費】伊藤まゆみ「Visible Storage: 見せる収蔵庫」の調査

### 2) 出講・委嘱

伊藤まゆみ 令和7年度 滋賀県 文化を活用した地域交流創出事業 専門評価員

### 3) 論文・著作

伊藤まゆみ「京都精華大学のコレクションのこれまでとこれから」(「眠りから目覚めた名品たち」展覧会カタログ、2026年3月、pp. 53-55)

齋藤雅宏「キュレーターズノート|スケッチにかえて」(「スケッチーズ」八瀬の石黒さん家から見た世界」展覧会カタログ、2026年3月、pp. 72-75)

## 2025年度京都精華大学ギャラリー Terra-S 運営体制

### 【館長】

鳥羽美花(芸術学部教員)

### 【ギャラリー Terra-S 運営委員会】

委員長：鳥羽美花(館長)

委員：宮永亮(芸術学部教員)

山口義順(デザイン学部教員)

横山美和(メディア表現学部教員)

伊藤まゆみ(ギャラリー Terra-S 学芸員)

### 【事務局】

松井雅(学長室グループ長)

池田和正(学長室グループリーダー)

伊藤まゆみ(学芸員/学長室グループ専任職員)

齋藤雅宏(展示コーディネーター/学長室グループ嘱託職員)

村田のぞみ(アシスタント/学長室グループ臨時職員)※2025年10月1日～

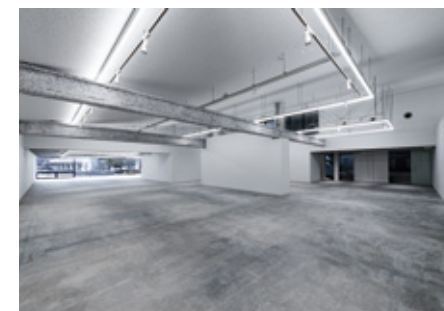
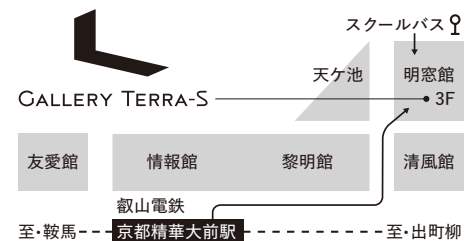
## 2025年度 ギャラリー来場者数 | NUMBER OF VISITORS

展覧会名	来場者数
申請展 「Sequence」	372
申請展 「Material Love」	400
申請展 「cycle」	226
申請展 「旅するテキスタイル Eight Sceneries」	484
企画展 「スケッチーズ   八瀬の石黒さんから見た世界」	1,272
申請展 「合同陶芸展 2025」	476
申請展 「おいでよ、Home (Come over, Home)」	506
申請展 「跡 seki 京都精華大学 嵯峨御流華道同好会 第28回華展」	172
その他 「木野祭展示会 2025『もえる』」	1,364
企画展 「眠りから目覚めた名品たち —京都精華大学ギャラリー Terra-S コレクション展 2025—」	1,301
申請展 「具□抽○」	308
申請展 「プロジェクト企画演習成果展『Paths』」	360
申請展 「アウトライン—上野英里×辻大輝」	
その他 「京都精華大学展 2026—卒業・修了発表展—」	2,727
申請展 「WATER COOLER CONVERSATIONS @ 左京区 (冷水機での対話 @ 左京区)」	186
その他 「高校生のための第7回創作作品コンペティション 『SEIKA AWARD 2026』入選作品展」	409
年間合計	10,563

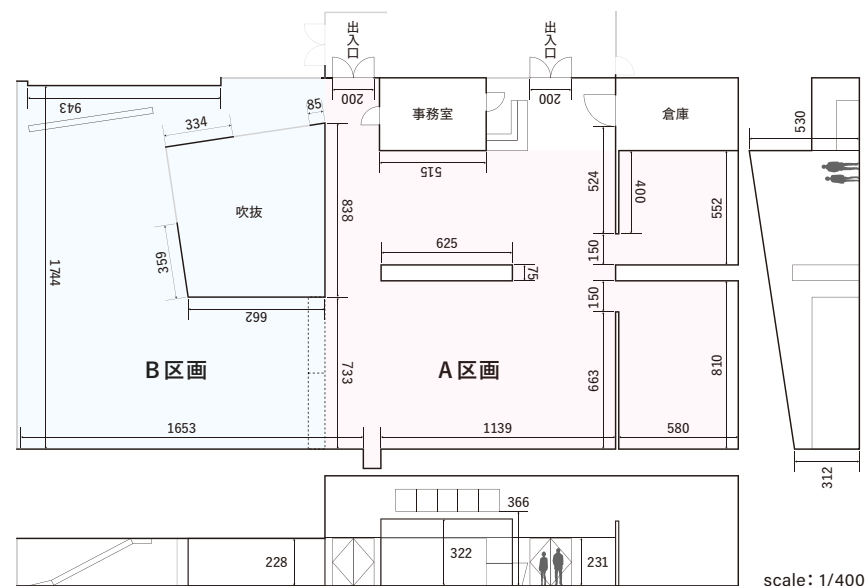
## 施設案内 | GENERAL INFORMATION

京都精華大学 明窓館3F  
〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137

開場日 | 展覧会開催期間  
休場日 | 日曜日・祝日・大学が定めた日  
開館時間 | 11:00 - 18:00 (展覧会により異なる)  
入場料 | 無料



## ギャラリー図面 | FLOOR PLAN





京都精華大学ギャラリーTerra-S 2025年度活動報告書

編集 齋藤雅宏、伊藤まゆみ、村田のぞみ(京都精華大学ギャラリーTerra-S)

デザイン 花戸麻衣

撮影 菱生田兵吾(pp. 8-11)、花戸麻衣(pp. 15-19、41-43)、矢野誠(pp. 28-29)

画像提供 ×SHAKE ART!(p. 46下)

京都精華大学

発行 〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137

[www.kyoto-seika.ac.jp](http://www.kyoto-seika.ac.jp)

発行日 2026年4月15日

